懸け橋

練馬区立石神井西中学校
学校だより　　３月号
平成３１年３月１４日
校　長　　松丸　　晴美

「つなぐ」

杉並公会堂に流れる各学級の歌声を聞きながら、１年間の学校生活を通して成長した生徒達の姿を見て、月日が流れるのは本当に早いものだと実感しました。３年前の入学式で「なりたい自分の姿をイメージして目標を定め、実現に向けて様々なことにチャレンジしてほしい」と話した三年生も、あと数日で卒業です。学校では、今年度の教育活動の成果と課題について生徒・保護者・地域の方々にご協力いただいたアンケート結果と学校評議員の皆様からのご意見を土台にして、来年度に向け、様々な計画づくりに着手しています。

加えて、今年１月中央教育審議会より出された、「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について」という答申を踏まえた教育活動や学校運営についても検討しているところです。

保護者や地域・関係機関の皆様には、１年間ご支援いただき、本当に有り難うございました。今後も本校の教育のさらなる質の向上・充実に努めて参りたいと考えております。

以下にアンケートの集計結果を掲載します。今年度の教育活動や目指す学校･生徒･保護者の姿、今年度の学校経営重点目標に沿って、生徒19項目、保護者22項目、教員26項目、地域関係者11項目について、（ア：とてもそう思う、イ：どちらかといえばそう思う、ウ：どちらかといえばそう思わない、エ：そう思わない）の４段階で12月～１月に評価を行いました。結果を集計し、ア・イの回答を肯定的評価と捉え肯定的評価の割合に注目し、

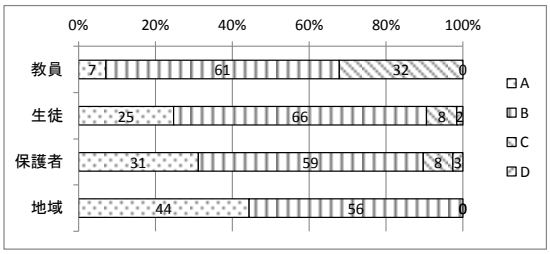
・80％以上の項目を　A（目標が充分達成できている）
・80％未満55％以上の項目を　B（概ね達成できている）
・55％未満40％以上の項目を　C（達成がやや不十分である）
・40％未満の項目を　D（達成が不十分である）として表記しています。

評価結果を学校関係者評価委員会において説明し意見を聴取するとともに校内企画調整委員会、各分掌・学年部会で分析を行い、評価A・Bの項目については次年度も継続した取り組みを進め、評価C・Dの項目については課題と捉え、具体的な改善策を策定して目標達成に向けて取り組んでまいります。

〈平成30年度　生徒･保護者･地域代表者･教職員による学校評価アンケートまとめ〉

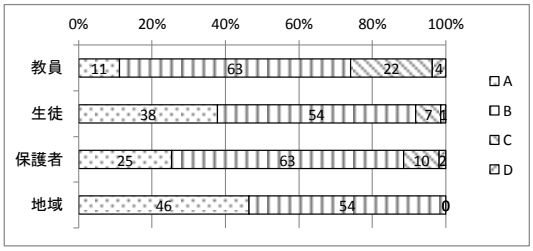
※単位は％です。（グラフは四捨五入して整数値で表記しています）

1 思いやりの心や相手の身になって考え、行動できること。



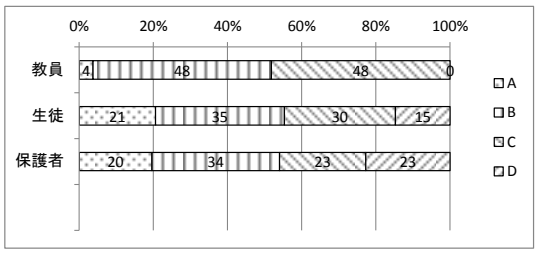
	A	B	C	D	
教員	7.1	60.7	32.1	0.0	・生徒、保護者、地域からは肯定的評価をいただいた。日常、教員のイメージする目指す生徒像に到る途上にあると考える。今後もきめ細かく生徒を見ていく姿勢をもち続けたい。次年度も「特別の教科　道徳」の授業や学校の教育活動全体を通して、「思いやりの心」や「相手のみになって考え行動できる生徒」の育成に努めていく。
生徒	24.8	65.8	7.9	1.6	
保護者	31.1	58.5	7.7	2.6	
地域	44.4	55.6	0.0	0.0	

2 場に応じた言葉遣いや返事ができること。



	A	B	C	D	
教員	11.1	63.0	22.2	3.7	・設問1と同様に生徒、保護者、地域からは肯定的評価をいただいた。入学間もない期間の中学1年生はまだ大人としての対応がとれていないので、時と場に応じて繰り返し指導をしていく。
生徒	37.8	54.0	6.8	1.4	
保護者	25.3	63.3	9.7	1.8	
地域	46.4	53.6	0.0	0.0	

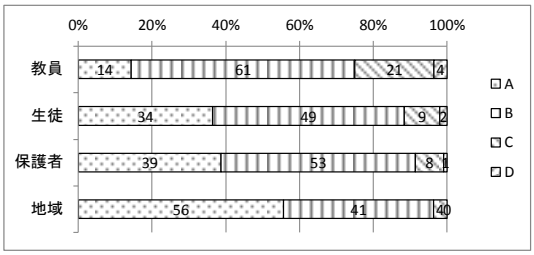
3 家庭学習の習慣を形成すること。



	A	B	C	D
教員	3.7	48.1	48.1	0.0
生徒	20.6	34.7	30.0	14.7
保護者	19.6	34.4	23.3	22.7

・家庭学習習慣は中学校入学までに習慣付いているとよい。学校の指導だけに任せず家庭でも習慣付けに努めてほしい。スマートフォンの使用時間が長くなることで勉強時間にも影響がでてしまケースもある。学校では学年や学級の取組として「家庭学習週間」を設け、来年度も重点目標として指導していく。

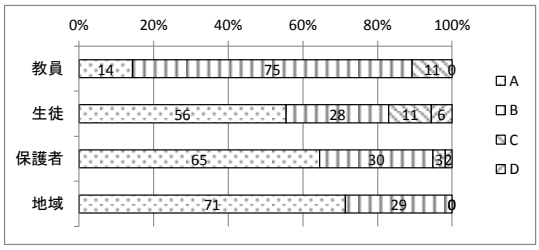
4 あいさつができること。→声に出す。無号令でおじぎ、授業始終の礼。



	A	B	C	D
教員	14.3	60.7	21.4	3.6
生徒	34.2	48.9	9.0	1.9
保護者	38.7	52.7	7.7	0.9
地域	55.6	40.7	3.7	0.0

・設問1と同様に生徒、保護者、地域からは肯定的評価をいただいた。生徒は挨拶を意識して行っている。これからも生徒会のキャンペーン等や部活動での指導を通して挨拶をする雰囲気を作っていく。防犯対策としても来校者への挨拶もできるように指導していく。

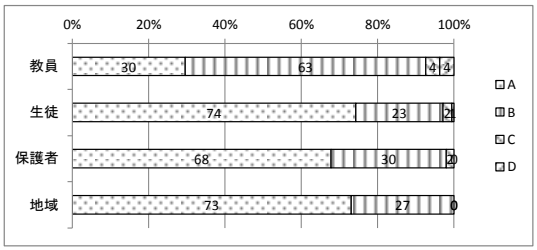
5 バッチを毎日着用すること。



	A	B	C	D
教員	14.3	75.0	10.7	0.0
生徒	55.5	27.5	11.4	5.6
保護者	64.5	30.4	3.3	1.8
地域	71.4	28.6	0.0	0.0

・教員の評価は肯定評価が8割を超えているが、「どちらかといえばそう思う」の割合が高かった。バッチの着用率は飛躍的に伸び、課題が改善している。朝礼時に声かけをした成果である。これからも保護者にもご協力いただき、家庭と連携を図りながら進めていく。

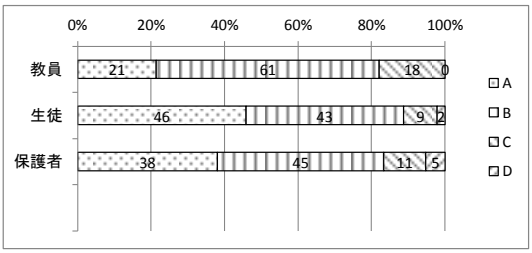
6 式服・体育着について、きちんとした着こなしができること。



	A	B	C	D
教員	29.6	63.0	3.7	3.7
生徒	74.2	22.8	2.3	0.6
保護者	67.8	30.2	2.0	0.0
地域	73.1	26.9	0.0	0.0

・四者とも肯定的な意見が高い。設問5同様、教員の肯定評価が8割を超えているが「どちらかといえばそう思う」の割合が高かった。普段の服装は、私服と式服の棲み分けがきちんとできている。教員の指導と声かけの成果である。式服マニュアルも作成され、着こなし方が可視化された。

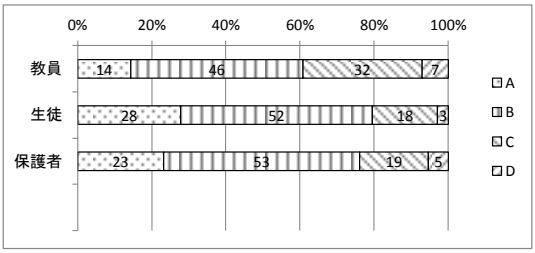
7 時間を守ること。→授業、朝礼、集合。



	A	B	C	D
教員	21.4	60.7	17.9	0.0
生徒	45.8	42.9	9.1	2.2
保護者	38.1	45.3	11.4	5.3

・この設問についても四者とも肯定的な意見が高く、また設問5同様、教員の肯定評価が8割を超えているが「どちらかといえばそう思う」の割合が高かった。授業開始時刻や朝礼の開始時刻を守るように指導し、遅刻者の数が大幅に減少した。冬場はぎりぎりに登校してくる生徒もいるので引き続き声かけが必要である。

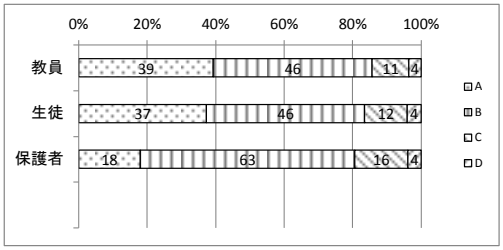
8 話を聞く態度を素早く整えること。→私語をせず待つ。無言で話を聞く。



	A	B	C	D
教員	14.3	46.4	32.1	7.1
生徒	27.8	51.7	17.6	2.9
保護者	23.2	52.9	18.5	5.4

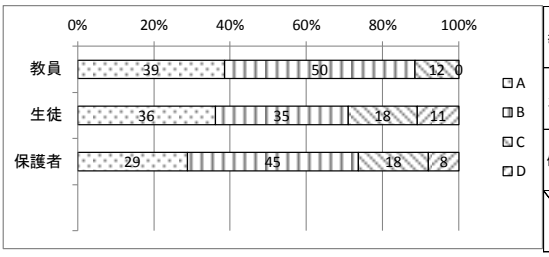
・全校で集まる機会では、非常に良い状態になっている。無言の状態を維持できない一部の生徒への指導が課題である。上級生が模範を示せるようになってきた。

9 障がい者スポーツの体験・理解を深めること。



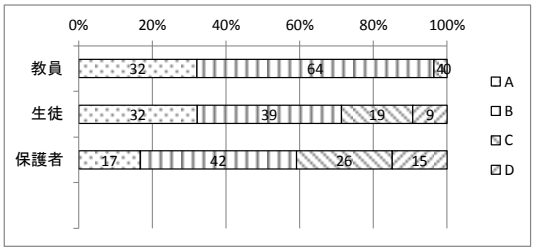
	A	B	C	D	
教員	39.3	46.4	10.7	3.6	・教員の肯定感が高い一方、それと比べると保護者の評価の方がやや低めである。生徒数が多く時間的な問題から、全員が体験まではできず、見学で終わっている生徒がいるためと思われる。この点の改善は困難である。
生徒	37.3	46.2	12.4	4.1	
保護者	18.0	62.7	15.5	3.9	

10 体力（投力・持久力）の向上を図ること。



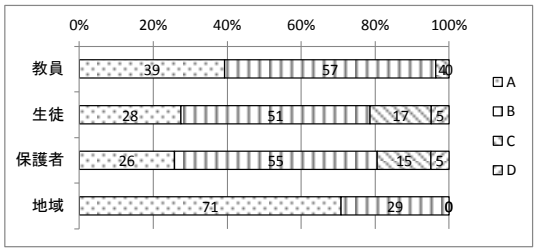
	A	B	C	D	
教員	38.5	50.0	11.5	0.0	・設問9と同様、教員の肯定感が高い一方、それと比べると保護者の評価の方がやや低めである。保健体育の授業を通じ、年間を通して投力、持久力の向上を図ってきた。運動部活動に所属していない生徒の底上げが課題である。
生徒	36.1	34.9	18.1	10.9	
保護者	28.8	44.9	18.4	8.0	

11 英語でのコミュニケーション意欲を高めること。→ＡＬＴなどの活用。実践的な英語活用能力を向上させること。



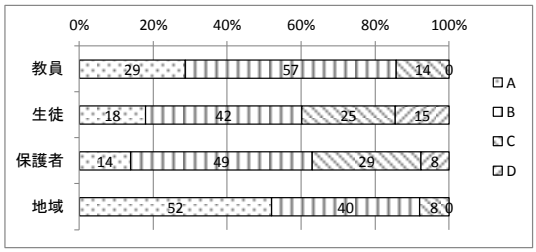
	A	B	C	D	
教員	32.1	64.3	3.6	0.0	・設問9と同様の傾向である。2年校外学習でのTOKYO GLOBAL GATEWAY英語体験学習、2年英語授業での英語ボランティアガイド講座、3年英語授業でのアメリカ大使館外交官による特別授業、ALTの学校行事への参加などを通して取り組むことができた。
生徒	32.2	39.1	19.4	9.3	
保護者	16.7	42.4	25.9	14.9	

12 生徒会活動・学校行事などを通して、自主性や責任感を伸長すること。



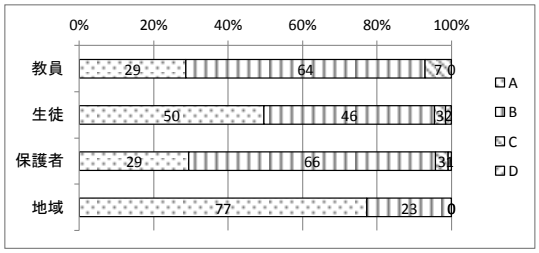
	A	B	C	D	
教員	39.3	57.1	3.6	0.0	・設問9と同様の傾向である。今年度も生徒会役員会を始め、各委員会を活発に活動させることができた。学校行事や生徒会活動に、生徒は責任をもって主体的に取り組み、また、協力しあうことができた。
生徒	27.5	51.1	16.6	4.8	
保護者	25.7	54.9	14.5	4.9	
地域	70.8	29.2	0.0	0.0	

13 青少年赤十字活動を理解し、ボランティア活動・体験などを行い、社会に貢献しようとする意欲や態度を醸成すること。



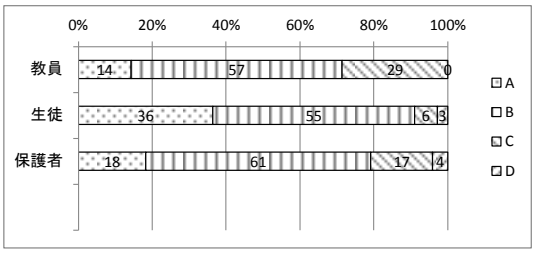
	A	B	C	D	
教員	28.6	57.1	14.3	0.0	・設問9と同様の傾向である。生徒の国際社会に対する関心や社会貢献への意欲が高まってきており、ボランティア活動参加希望者が増えている。青少年赤十字委員会の活動にも非常に協力的な生徒が多い。
生徒	17.9	42.3	25.3	14.6	
保護者	13.8	49.2	29.4	7.6	
地域	52.0	40.0	8.0	0.0	

14 ルールやマナーを守ろうとする心や態度を育てること。



	A	B	C	D	
教員	28.6	64.3	7.1	0.0	・四者とも肯定的な意見の割合が高い。生徒は規律ある学校生活ができている。特に校外学習や宿泊行事などで、年々生徒の規範意識が大きく改善している。職員室への出入り等も折り目正しい態度が醸成されている。
生徒	49.6	45.9	2.9	1.6	
保護者	29.4	66.3	3.4	0.9	
地域	77.3	22.7	0.0	0.0	

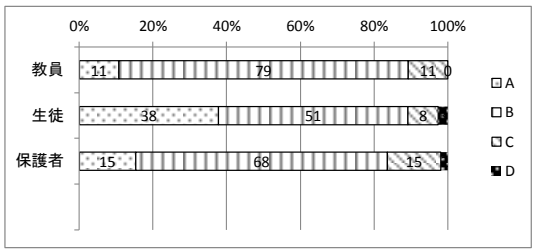
15 補充指導や基礎・基本の確実な定着を図るための指導を行うこと。



	A	B	C	D
教員	14.3	57.1	28.6	0.0
生徒	36.4	54.6	6.2	2.8
保護者	18.3	60.9	16.8	4.1

・教員や保護者よりも生徒自身のほうが、基礎・基本の定着を図る指導が行われていると感じている割合が高い。次年度も重点目標として各教科で工夫して、補充指導を充実させていく。

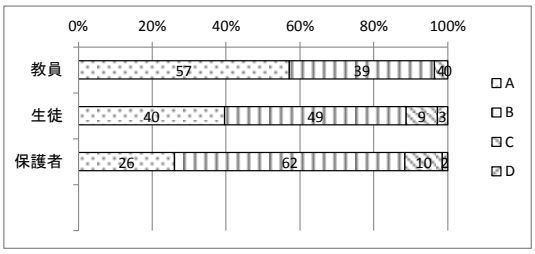
16 思考力・判断力・表現力を高める授業を行うこと。



	A	B	C	D
教員	10.7	78.6	10.7	0.0
生徒	37.7	51.4	8.2	2.6
保護者	15.3	68.3	14.5	1.9

・設問15と同様な傾向にある。教員には、校長・副校長との面接を通して、重点目標として「思考力・判断力・表現力」を高めるための具体策を立てさせ授業改善に取り組んだ。次年度も生徒の授業アンケートを活用しながらさら授業改善に取り組んでいく。

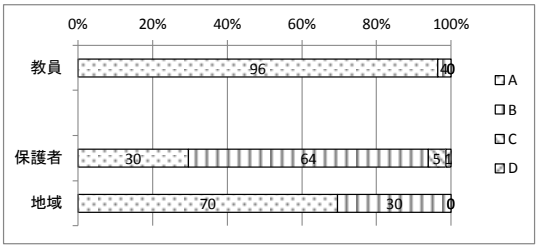
17 オリンピック・パラリンピック学習を推進し、日本及び他国の理解、人・文化・伝統等を尊重する態度や心を育成すること。



	A	B	C	D
教員	57.1	39.3	3.6	0.0
生徒	39.6	49.1	8.5	2.8
保護者	26.0	62.4	10.1	1.5

・設問9と同様の傾向にある。次年度は、「豊かな国際感覚の醸成」、「ボランティアマインドの育成」に関わる教育活動の中で、TOKTO2020以後のレガシーにつながる取組を精査していく。

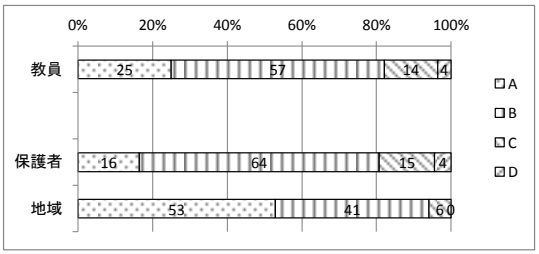
18 ホームページや学年だより等による広報を適切に行うこと。



	A	B	C	D
教員	96.4	3.6	0.0	0.0
保護者	29.6	64.3	4.7	1.4
地域	69.6	30.4	0.0	0.0

・三者とも肯定的な意見が多く、とりわけ教員自身の肯定感が高い。学校だよりは毎月発行している。学校ホームページも昨年度の年間ヒット数141,433を約10,000ヒット超えることができた。今後も、保護者だけではなく地域の方にもわかりやすいホームページを作り、情報提供に努める。

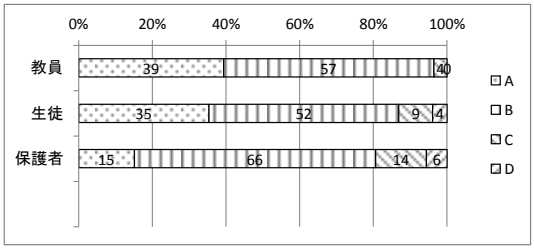
19 ユニバーサルデザインに配慮した校内掲示物や教室環境の整備を行うこと。



	A	B	C	D
教員	25.0	57.1	14.3	3.6
保護者	16.4	64.4	14.9	4.4
地域	52.9	41.2	5.9	0.0

・三者ともに肯定的な意見が多い。次年度は、特別支援教室（名称をMy Step Up Roomと呼ぶ）が開設することもあり、教室環境や学習スタイルを始め、さらにユニバーサルデザインに配慮した校内環境を整えていく。

20 生徒理解と適切な支援、スクールカウンセラーや関係機関との連携を図ること。



	A	B	C	D
教員	39.3	57.1	3.6	0.0
生徒	35.4	51.6	9.2	3.9
保護者	15.1	65.5	13.8	5.6

・三者ともに肯定的評価の割合が多いが、教員の自己評価と比較すると保護者の評価が低いので、保護者の悩みの解決までは到っていないケースがあると思われる。不登校の要因は、友人関係よりも情緒面に起因するケースが多くなっているので、今後も子供家庭支援センターや児童相談所、医療機関等との連携を深めていく。